

## ○年金たる補償の額等の端数処理の実施について

昭和56年2月19日地基企第6号  
各支部事務長あて 企画課長

第1次改正 昭和56年12月25日地基企第59号  
第2次改正 昭和57年9月30日地基企第33号  
第3次改正 昭和60年10月1日地基企第30号  
第4次改正 昭和61年3月31日地基企第11号  
第5次改正 昭和62年2月1日地基企第3号  
第6次改正 平成2年10月1日地基企第21号  
第7次改正 平成6年7月22日地基企第40号  
第8次改正 平成8年7月29日地基企第55号  
第9次改正 平成22年3月19日地基企第15号

地方公務員災害補償法（以下「法」という。）第39条の2、附則第8条、地方公務員災害補償基金業務規定（以下「規定」という。）第29条の15及び「年金たる補償等の支払いに関する端数計算の取扱いについて（平成8年7月22日地基企第52号。以下「理事長通知」という。）」の実施については、別紙を参考にして処理して下さい。（第1次改正・一部、第3次改正・一部、第5次改正・一部、第8次改正・一部）

別紙（第2次改正・一部、第3次改正・一部、第4次改正・一部、第5次改正・一部、第6次改正・一部、第8次改正・全部、第9次改正・一部）

### 第1 年金たる補償の額の端数処理

#### 1 通常の場合

<例> 遺族補償年金

・遺族の数 4人  $\left\{ \begin{array}{l} \text{受給権者} \quad 3人 \cdots \cdots 245\text{日分} \\ \text{受給資格者} \quad 1人 \end{array} \right.$   
・平均給与額 9,317円

○年金たる補償の額

(平均給与額) (乗ずべき数)  $\left( \frac{1}{\text{受給権者の数}} \right)$

$$9,317 \times 245 \times \frac{1}{3} = 760,888.33 \Rightarrow \underline{760,900\text{円}}$$

(法第39条の2による端数処理  
[100円未満の端数処理])

○4月、6月、8月、10月及び12月の各支払期月に受給権者1人に対して支払われる額

(年金額)  $\left( \frac{\text{支給月数}}{12} \right)$

$$760,900 \times \frac{2}{12} = 126,816 \frac{2}{3} \Rightarrow \underline{126,816\text{円}}$$

(理事長通知による端数処理  
[円未満切捨て])

○2月期に受給権者1人に対して支払われる額

(年金額)  $\left( \frac{\text{支給月数}}{12} \right)$  (4月、6月、8月、10月及び  
12月期に切り捨てられた額)

$$760,900 \times \frac{2}{12} + \frac{2}{3} \times 5$$



$$692,600 \times \frac{2}{12} + \frac{2}{3} + 0 + \frac{1}{3} \times 3$$

$$= 115,433 \frac{1}{3} + \frac{5}{3} = \underline{115,435\text{円}}$$

<例2> 障害補償年金に係る平均給与額が給与改定に伴い平成9年4月1日に遡って改定され、平成10年1月に追給分を支給する場合及びその場合の平成10年2月期に支払われる額

- ・平成9年4月6日 治ゆ
- ・障害等級 第2級……277日分
- ・平均給与額 11,348円→11,575円
- ・給与改定前の年金額

$$\begin{array}{l} \text{(平均給与額)} \quad \text{(乗すべき数)} \qquad \qquad \qquad \text{(年金額)} \\ 11,348 \quad \times \quad 277 \quad = 3,143,396 \Rightarrow 3,143,400\text{円} \\ \text{(法第39条の2による端数処理)} \end{array}$$

- ・給与改定後の年金額

$$\begin{array}{l} \text{(平均給与額)} \quad \text{(乗すべき数)} \qquad \qquad \qquad \text{(年金額)} \\ 11,575 \quad \times \quad 277 \quad = 3,206,275 \Rightarrow 3,206,300\text{円} \\ \text{(法第39条の2による端数処理)} \end{array}$$

○平成9年6月期に本来支払うべき額

$$\begin{array}{l} \text{(年金額)} \quad \left( \frac{\text{支給月数}}{12} \right) \\ 3,206,300 \quad \times \quad \frac{1}{12} \quad = 267,191 \frac{2}{3} \Rightarrow \underline{267,191\text{円}} \\ \text{(理事長通知による端数処理)} \end{array}$$

○平成9年8月期、10月期及び12月期に本来支払うべき額

$$\begin{array}{l} \text{(年金額)} \quad \left( \frac{\text{支給月数}}{12} \right) \\ 3,206,300 \quad \times \quad \frac{2}{12} \quad = 534,383 \frac{1}{3} \Rightarrow \underline{534,383\text{円}} \\ \text{(理事長通知による端数処理)} \end{array}$$

○平成9年6月期に既に支払った額

$$\begin{array}{l} \text{(年金額)} \quad \left( \frac{\text{支給月数}}{12} \right) \\ 3,143,400 \quad \times \quad \frac{1}{12} \quad = \underline{261,950\text{円}} \end{array}$$

○平成9年8月期、10月期及び12月期に既に支払った額

$$\begin{array}{l} \text{(年金額)} \quad \left( \frac{\text{支給月数}}{12} \right) \\ 3,143,400 \quad \times \quad \frac{2}{12} \quad = \underline{523,900\text{円}} \end{array}$$

○平成10年1月に追給することとなる額

(本来支払うべき額)



○年金たる補償の額

(平均給与額) (乗すべき数) (1 + 割増率)

$$8,321 \times 313 \times \left(1 + \frac{40}{100}\right) = 3,646,262.2 \Rightarrow \underline{3,646,300\text{円}}$$

(法第39条の2による端数処理)

5 他の法令による給付との調整を行う場合 (法附則第8条)

<例> 遺族補償年金

- ・遺族の数 3人  $\left\{ \begin{array}{l} \text{受給権者} \quad 1人 \cdots \cdots 223\text{日分} \\ \text{受給資格者} \quad 2人 \end{array} \right.$
- ・平均給与額 7,452円
- ・他の法令による給付 厚生年金保険法による遺族厚生年金  
及び国民年金法による遺族基礎年金
- ・施行令附則第3条第1項の率 0.80

○年金たる補償の額

(平均給与額) (乗すべき数)

$$7,452 \times 223 = 1,661,796\text{円}$$

(調整率)

$$1,661,796 \times 0.80 = 1,329,436.8 \Rightarrow \underline{1,329,400\text{円}}$$

(法附則第8条による端数処理[100円未満の端数処理])

第2 傷病特別給付金、年金たる障害特別給付金及び年金たる遺族特別給付金

(以下「年金たる特別給付金」という。)の額の端数処理

<例> 遺族特別給付金

- ・遺族の数 4人  $\left\{ \begin{array}{l} \text{受給権者} \quad 2人 \cdots \cdots 245\text{日分} \\ \text{受給資格者} \quad 2人 \end{array} \right.$
- ・平均給与額 9,351円

○年金たる特別給付金の額

(平均給与額) (乗すべき数) (支給率)  $\left(\frac{1}{\text{受給権者の数}}\right)$

$$9,351 \times 245 \times \frac{20}{100} \times \frac{1}{2}$$

$$= 229,099.5 \Rightarrow \underline{229,100\text{円}}$$

(規程第29条の15による端数処理[100円未満の端数処理])

○4月、6月、8月、10月及び12月の各支払期月に支払われる額

(特別給付金年額)  $\left(\frac{\text{支給月数}}{12}\right)$

$$229,100 \times \frac{2}{12} = 38,183 \frac{1}{3} \Rightarrow \underline{38,183\text{円}}$$

(理事長通知による端数処理)

○2月期に支払われる額

$$\begin{array}{l} \text{(特別給付金年額)} \\ 229,100 \end{array} \times \frac{\text{支給月数}}{12} \quad \begin{array}{l} \text{(4月、6月、8月、10月及び} \\ \text{12月期に切り捨てられた額)} \end{array} + \frac{1}{3} \times 5$$
$$= 38,183 \frac{1}{3} + \frac{5}{3} = \underline{38,185\text{円}}$$